

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和3年度病害虫発生予察特殊報第2号について（送付）



日置市のオリーブで、ハンエンカタカイガラムシの発生が認められ、特殊報第2号を発表したので送付します。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jpnn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第2号

1 病害虫名 ハンエンカタカイガラムシ *Saissetia coffeae* (Walker)

2 発生作物名 オリーブ *Olea europaea* L. (モクセイ科)

3 発生確認状況及び被害状況

令和3年9月、日置市のオリーブ（露地栽培）でカイガラムシ類の寄生が認められた。寄生された果実や枝葉では、すす症状の汚れがみられた（図1）。門司植物防疫所鹿児島支所に本虫の同定を依頼した結果、ハンエンカタカイガラムシと確認された。

なお、現在他市町村のオリーブでの発生は認めていない。

4 本種の特徴

(1) 被害

枝葉に寄生し、多発すると落葉するほか、排泄物（甘露）で枝葉や果実がべたつき、すす病が誘発されることから、果実の品質が損なわれ、樹勢が低下する。

(2) 形態

雌成虫の体長は2～4mm、未成熟成虫の体表面は平らで暗色斑のある淡黄色～桃色でH型の隆起線がある（図2）。成熟成虫の背面は著しく隆起して硬皮し、黄褐色～茶褐色で光沢がある（図3）。また、老熟成虫はH型の隆起線が消失し、虫体表面は完全になめらかとなる。

(3) 寄主植物

カンキツ類、コーヒーノキ、ソテツ、バンジロウなど、極めて寄主範囲が広い。熱帯果樹類の害虫として知られるほか、温室内の1年生草本に至るまで、多くの植物を侵害する。オリーブへの寄生の報告は国内初である。

(4) 生態

雌だけで増殖する単為生殖を行い、年間世代数などは明らかでないが、発生は不規則で、年間を通して幼虫から成虫までの各発育段階のものがみられる。

(5) 分布

世界中の熱帯、亜熱帯に広く分布し、国内では九州南部、南西諸島、八丈島、小笠原諸島で野外に発生し、各地の温室にもごく普通にみられる。

5 防除対策

- (1) 寄生枝葉を認めた場合は、速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (2) オリーブの苗を定植する際には、本種の寄生に十分注意する。
- (3) 薬剤はモベントフロアブルがカイガラムシ類に登録がある（表1）。登録内容を遵守し、適切に散布する。

表1 モベントフロアブルの登録内容（令和4年1月13日現在）

作物名	希釈倍率	散布量	使用時期	使用回数	使用方法
オリーブ	2,000倍	200～	収穫7日前まで	本剤：2回以内 スピロテメト：2回以内	散布
オリーブ(葉)		700L/10a	収穫90日前まで		

6 参考文献等

河合省三（1980）：日本原色カイガラムシ図鑑，全国農村教育協会（東京），158～159.



図1 枝への寄生とすす症状の発生状況



図2 未成熟成虫
(背面にH型の隆起線がある)



図3 成熟成虫（中央）
(背面は著しく隆起して硬皮し，光沢がある)